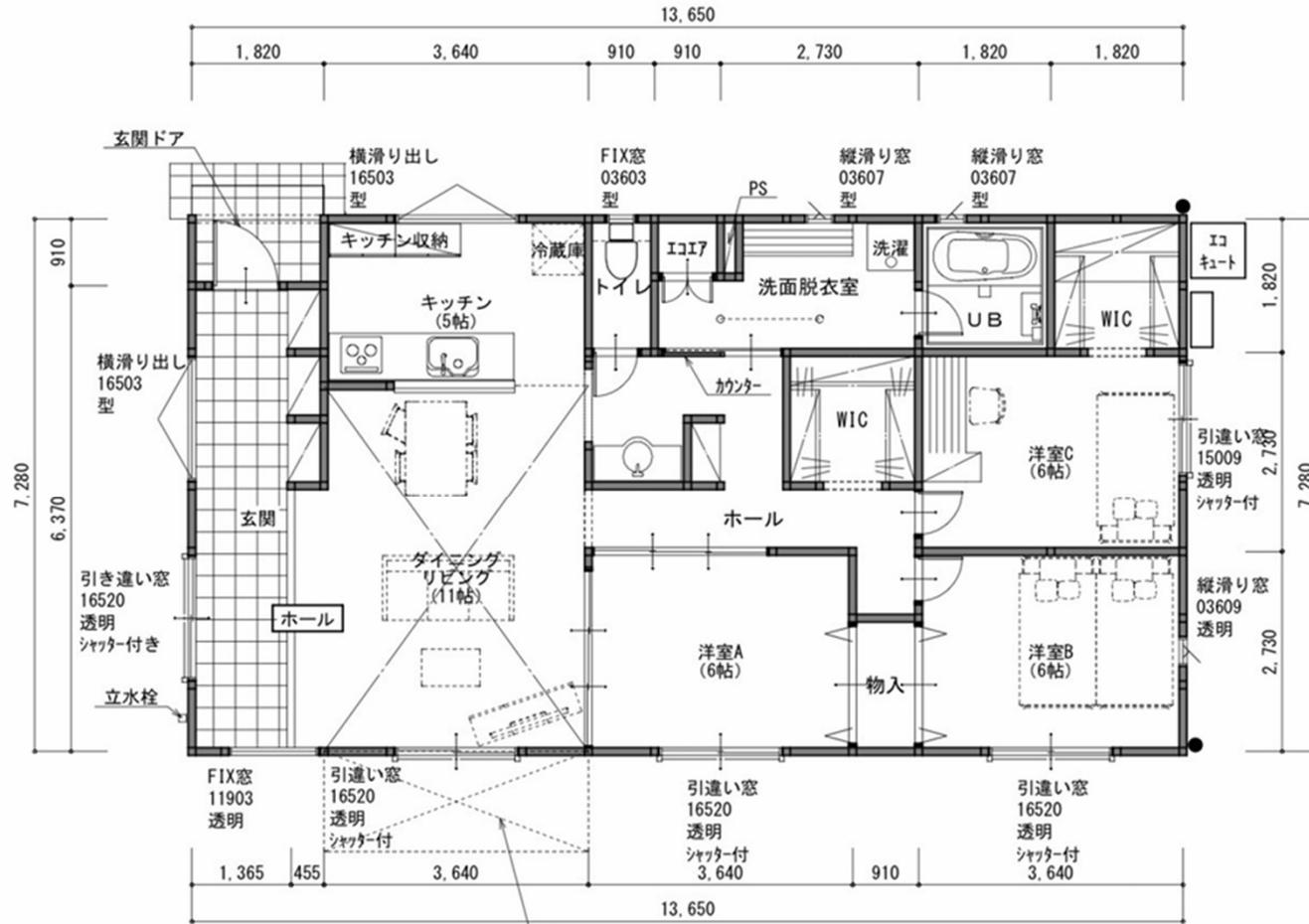
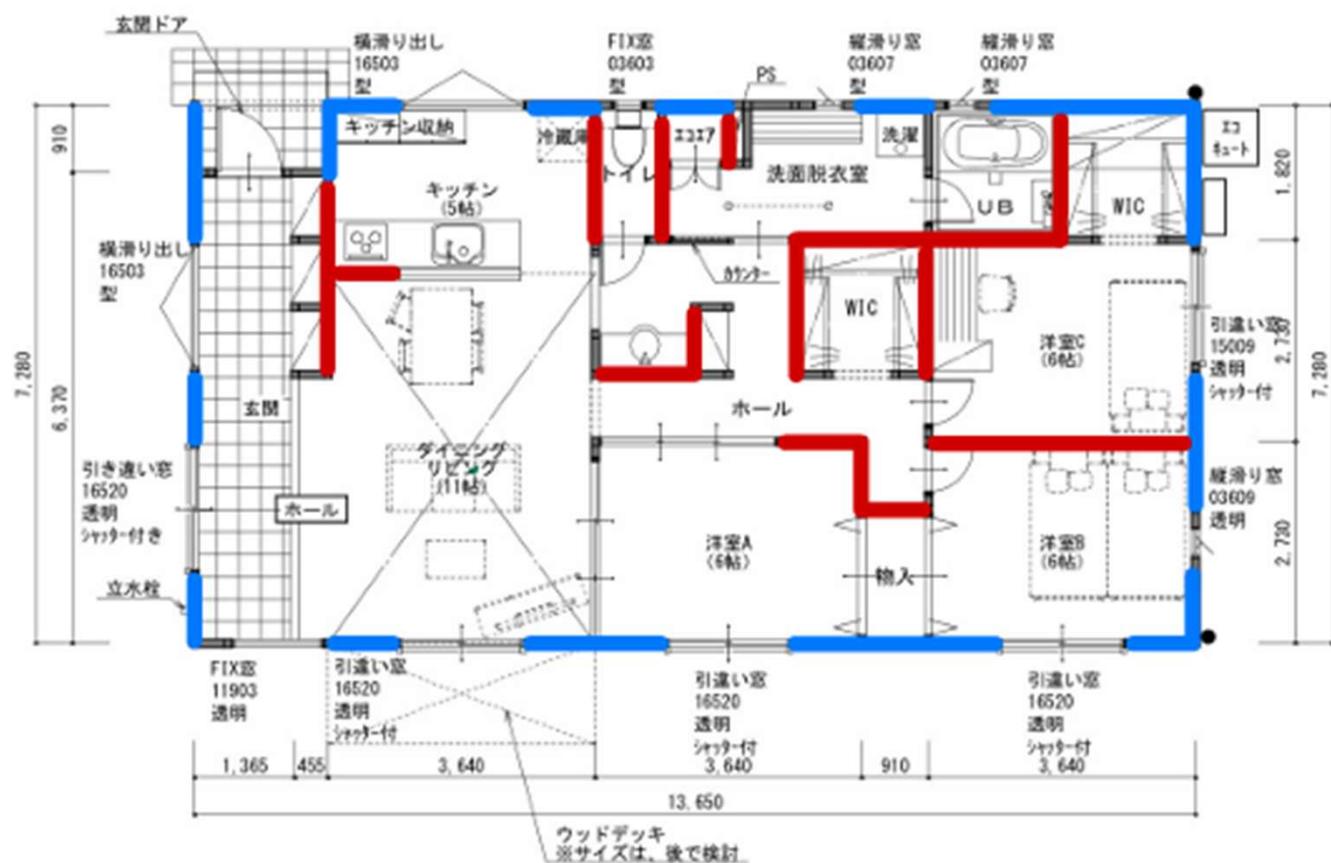


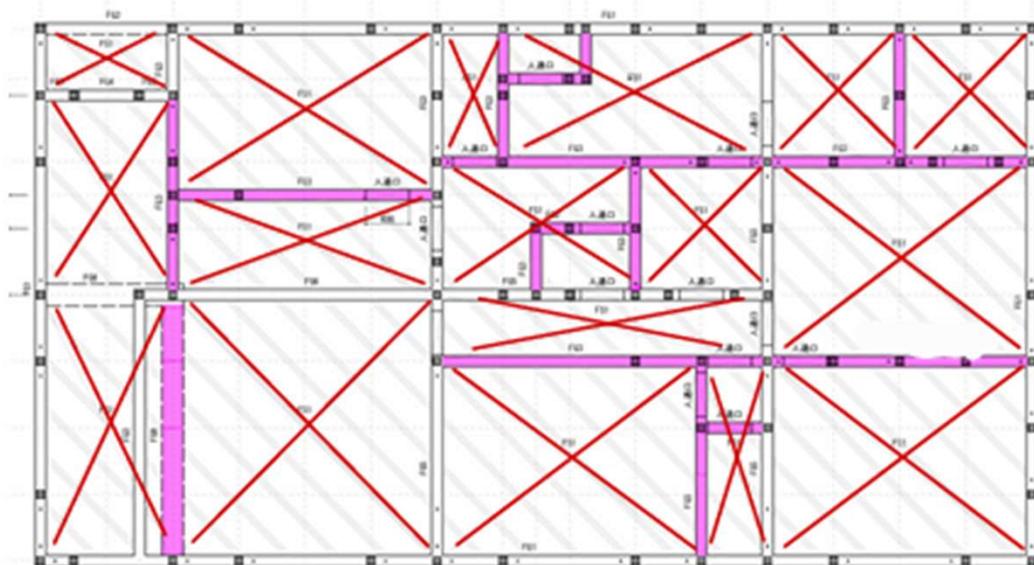
「構造計画」実践例



耐力壁 (通常)



基礎 (通常)



スラブ区画17区画

また、構造区画の基本寸法は、4スパン（1スパンは910mm～1,000mmとし、「1P」という。）とし、最大4P×6Pとする（図3.1）。4Pを超えると横架材の部材寸法が大きくなり、梁が特注材となるなどコストが増加する恐れがあるため、4P以下に柱を配置する（図3.2）。

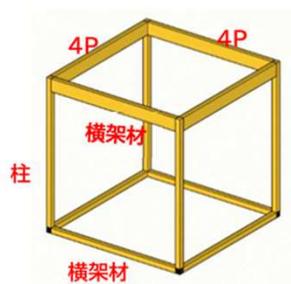


図 3.1 基本寸法 4P×4P

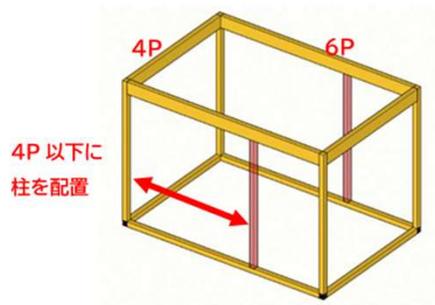
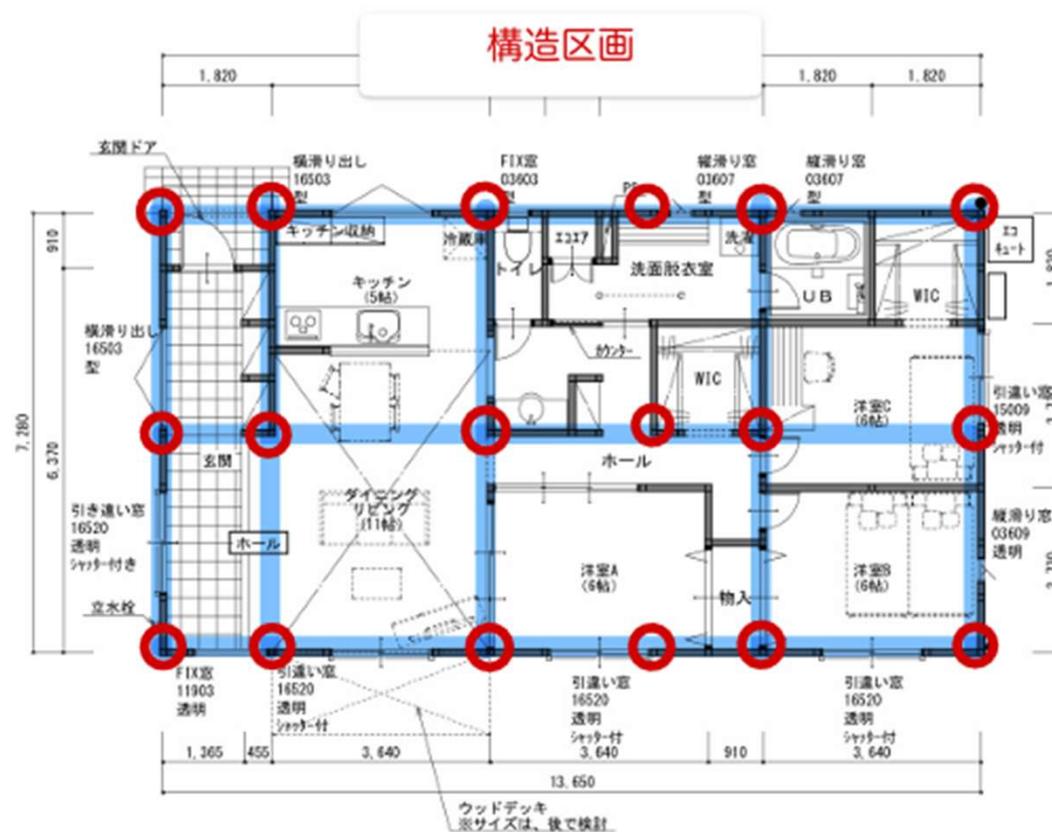
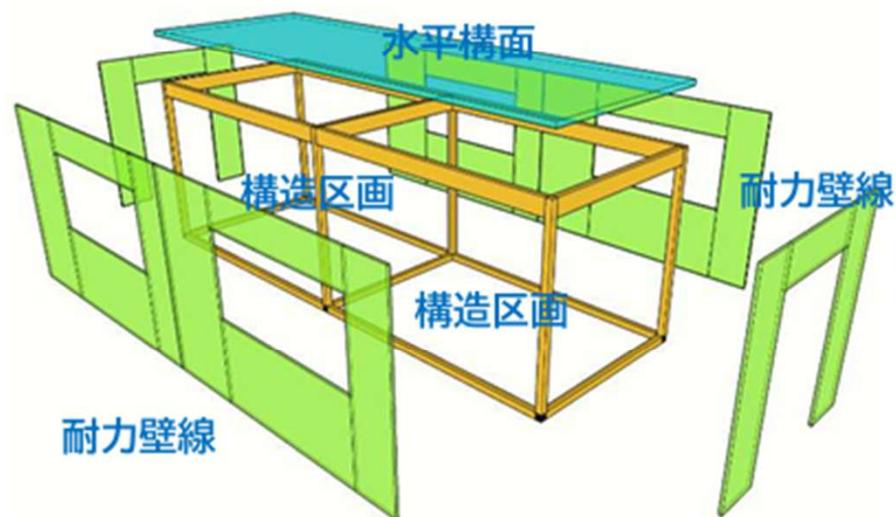


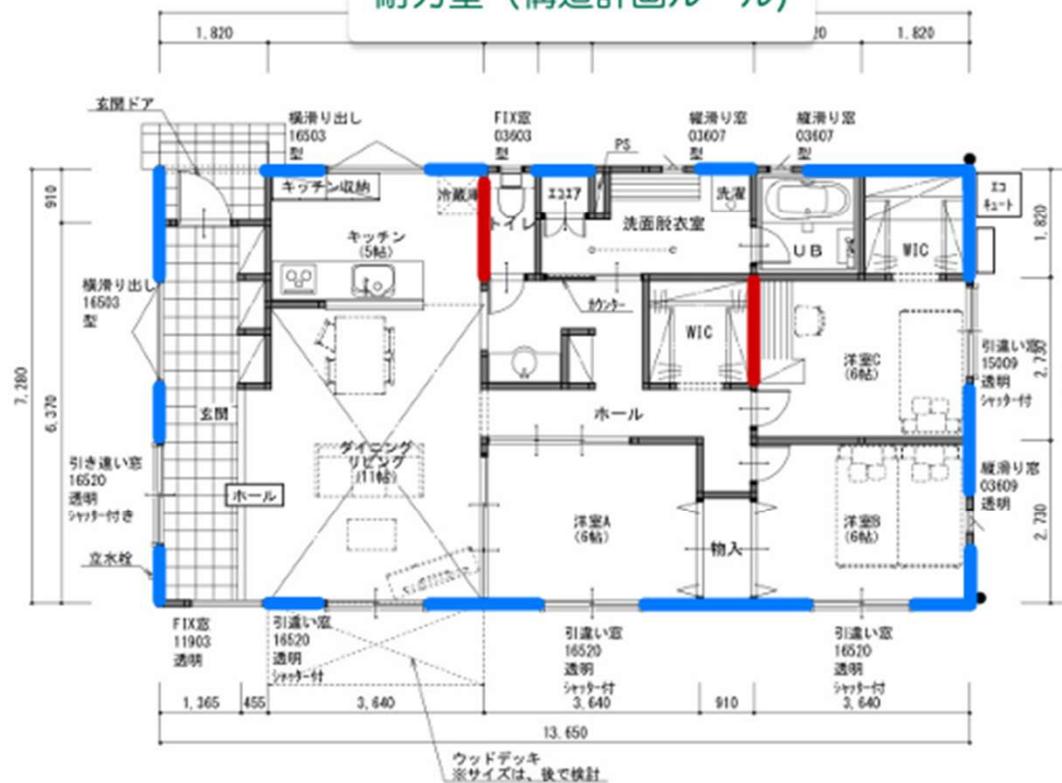
図 3.2 最大寸法 4P×6P



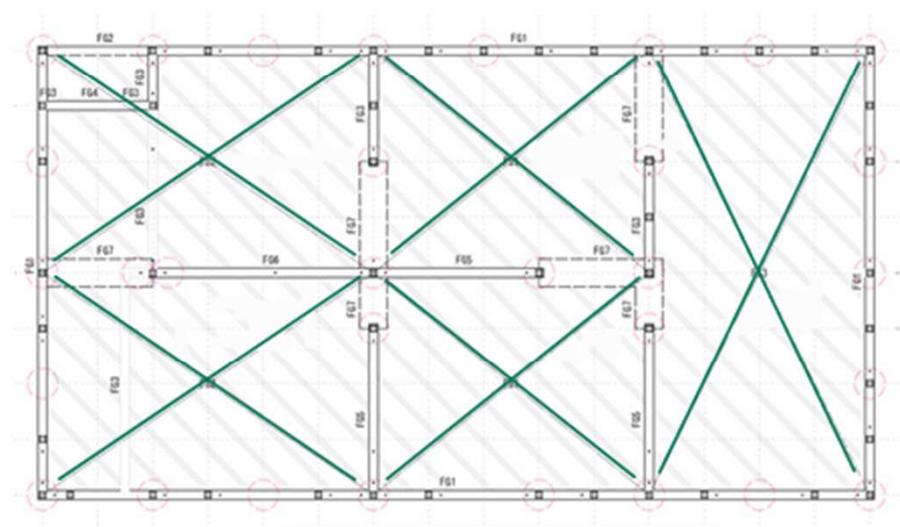
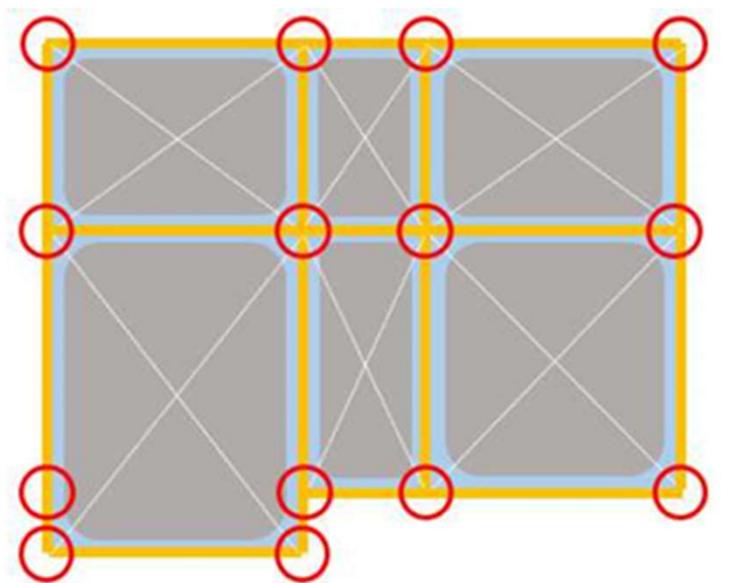
構造計画ルールの実践



耐力壁（構造計画ルール）



基礎（構造計画ルール）

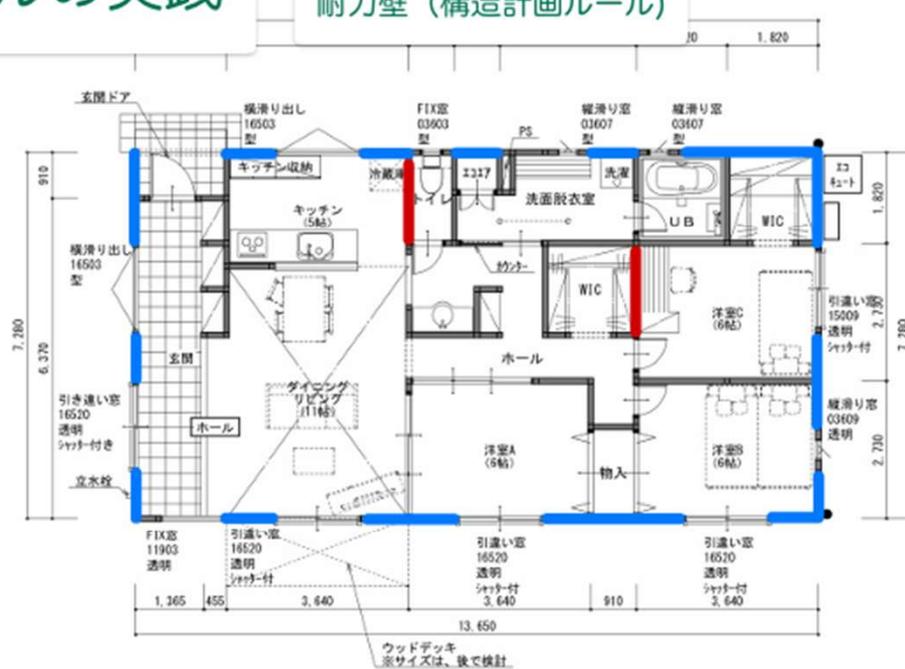
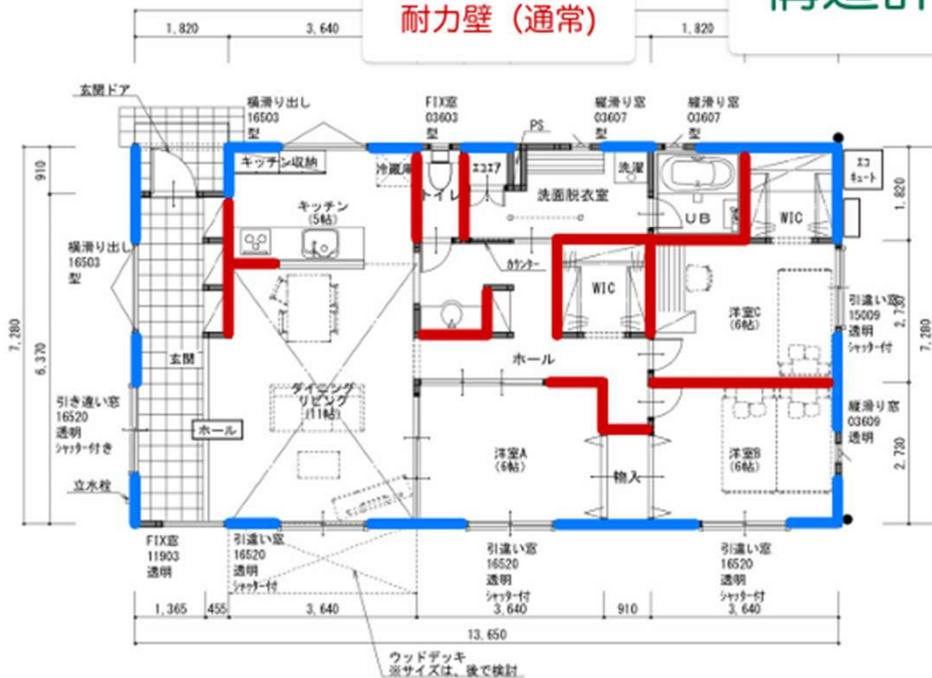


スラブ区画5区画

構造計画ルールの実践

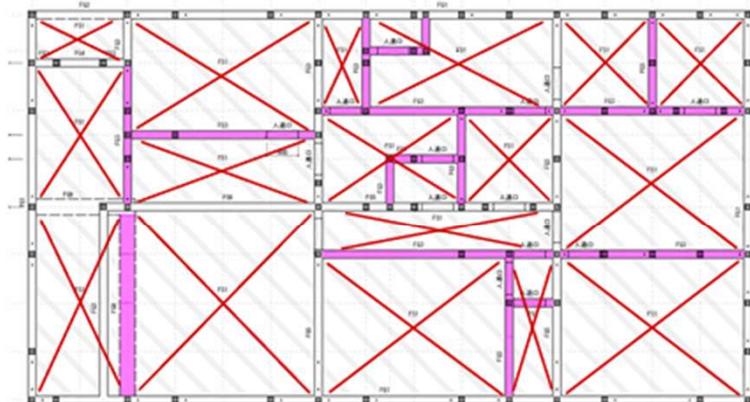
耐力壁 (通常)

耐力壁 (構造計画ルール)

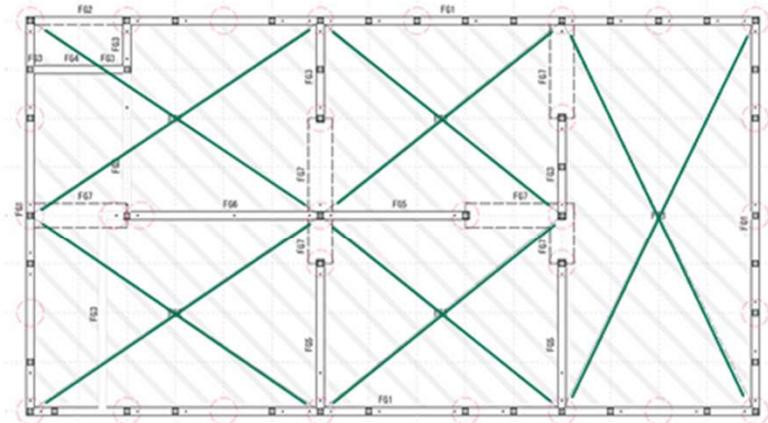


基礎 (通常)

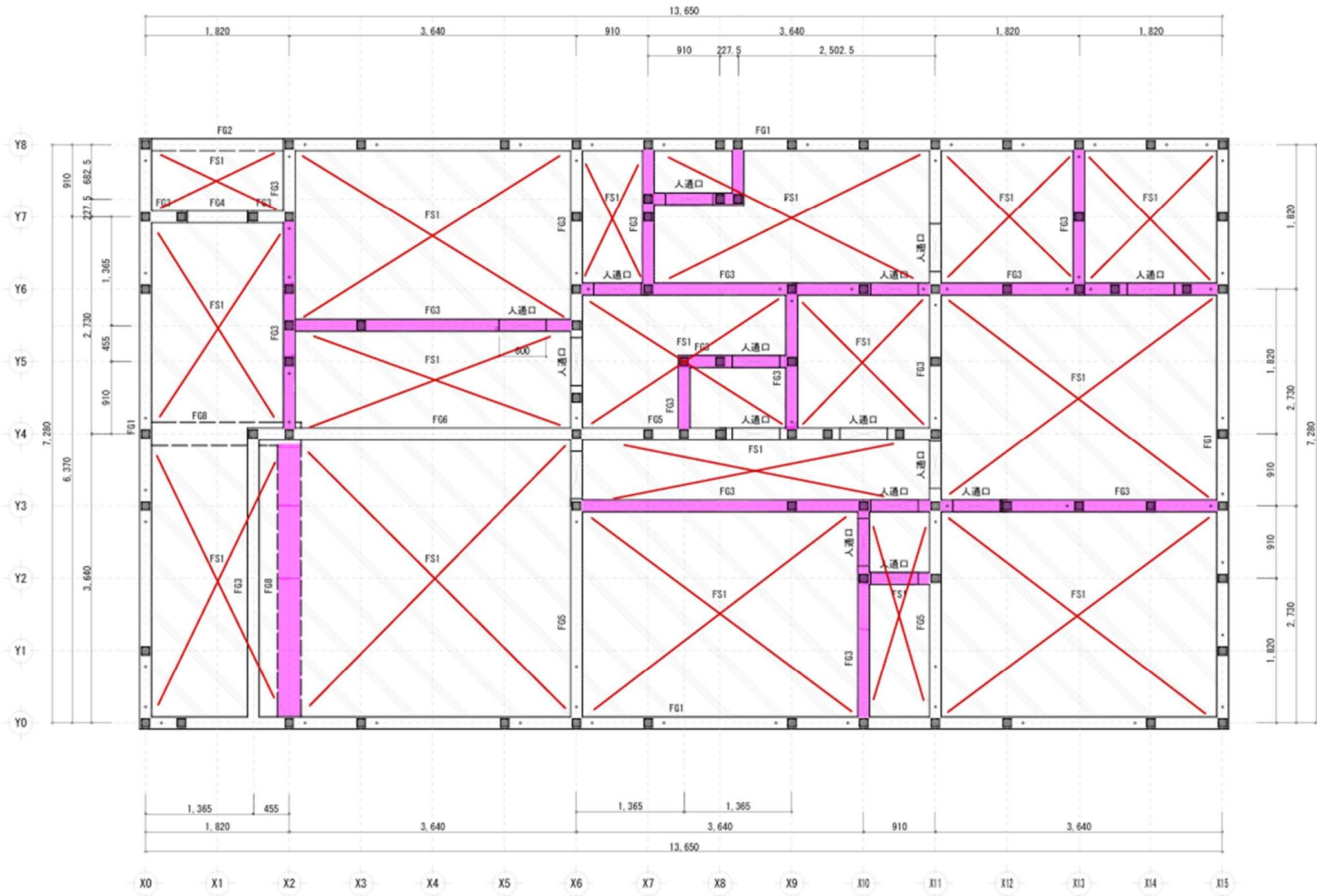
基礎 (構造計画ルール)



スラブ区画17区画

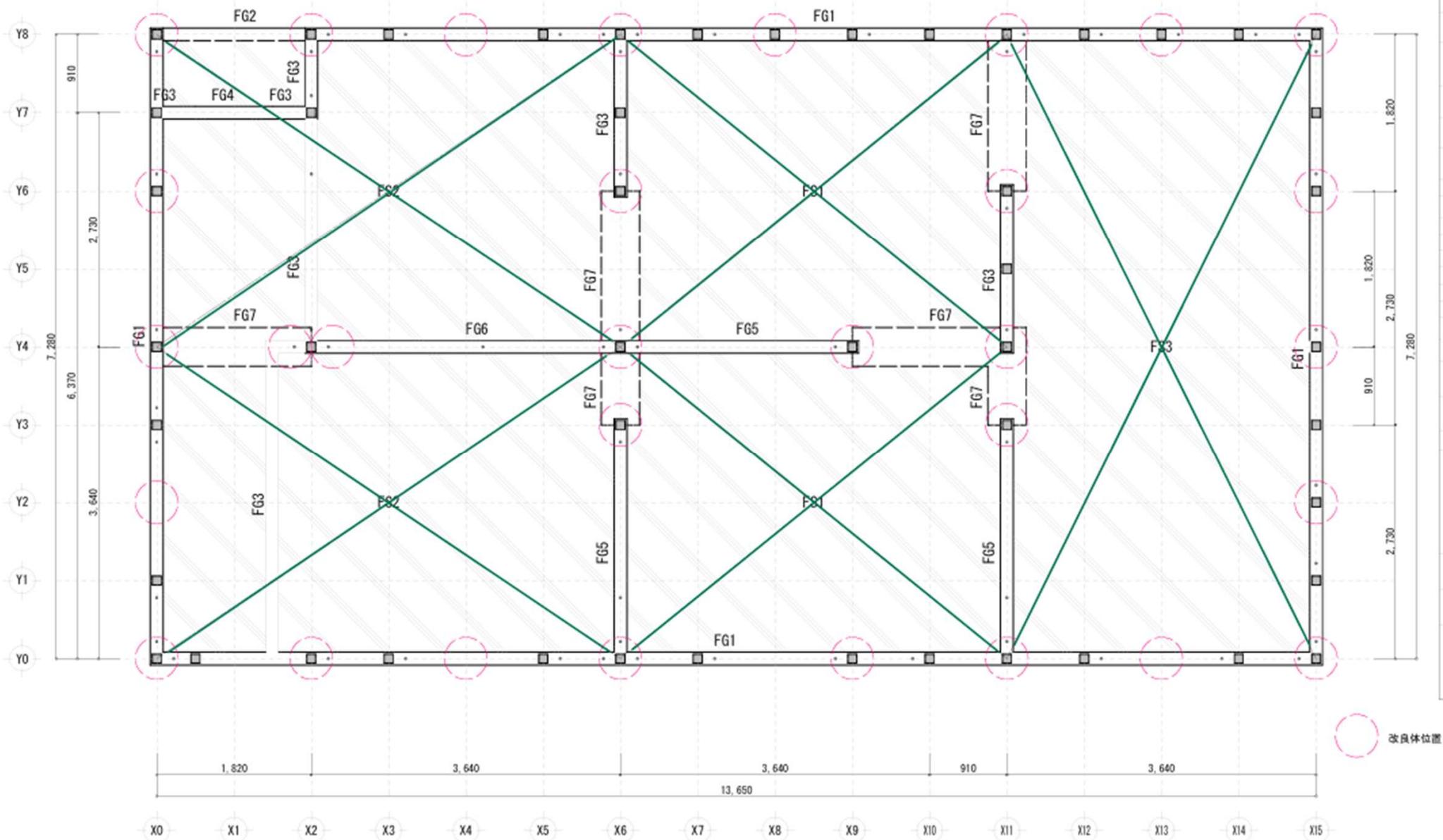


スラブ区画5区画

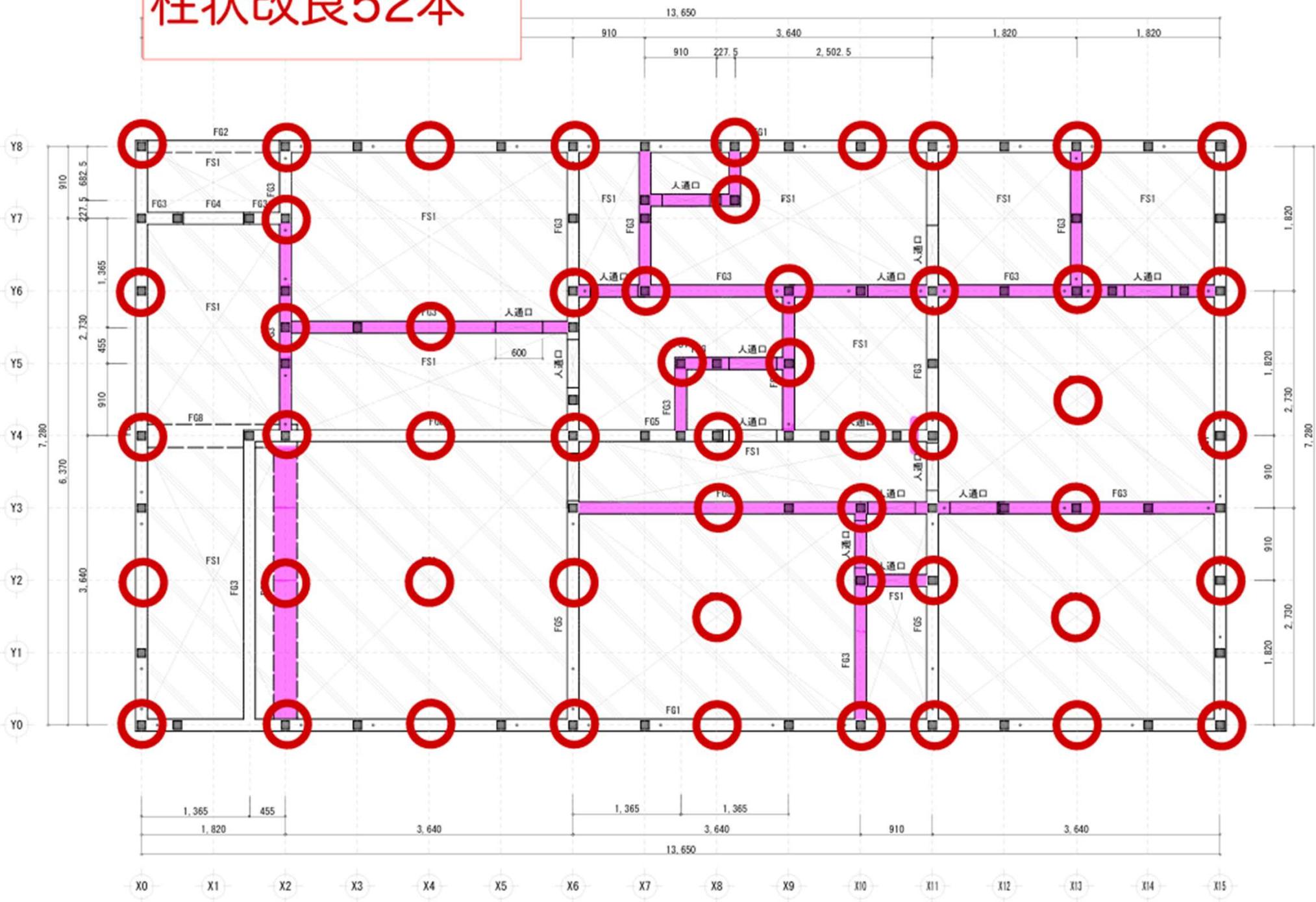


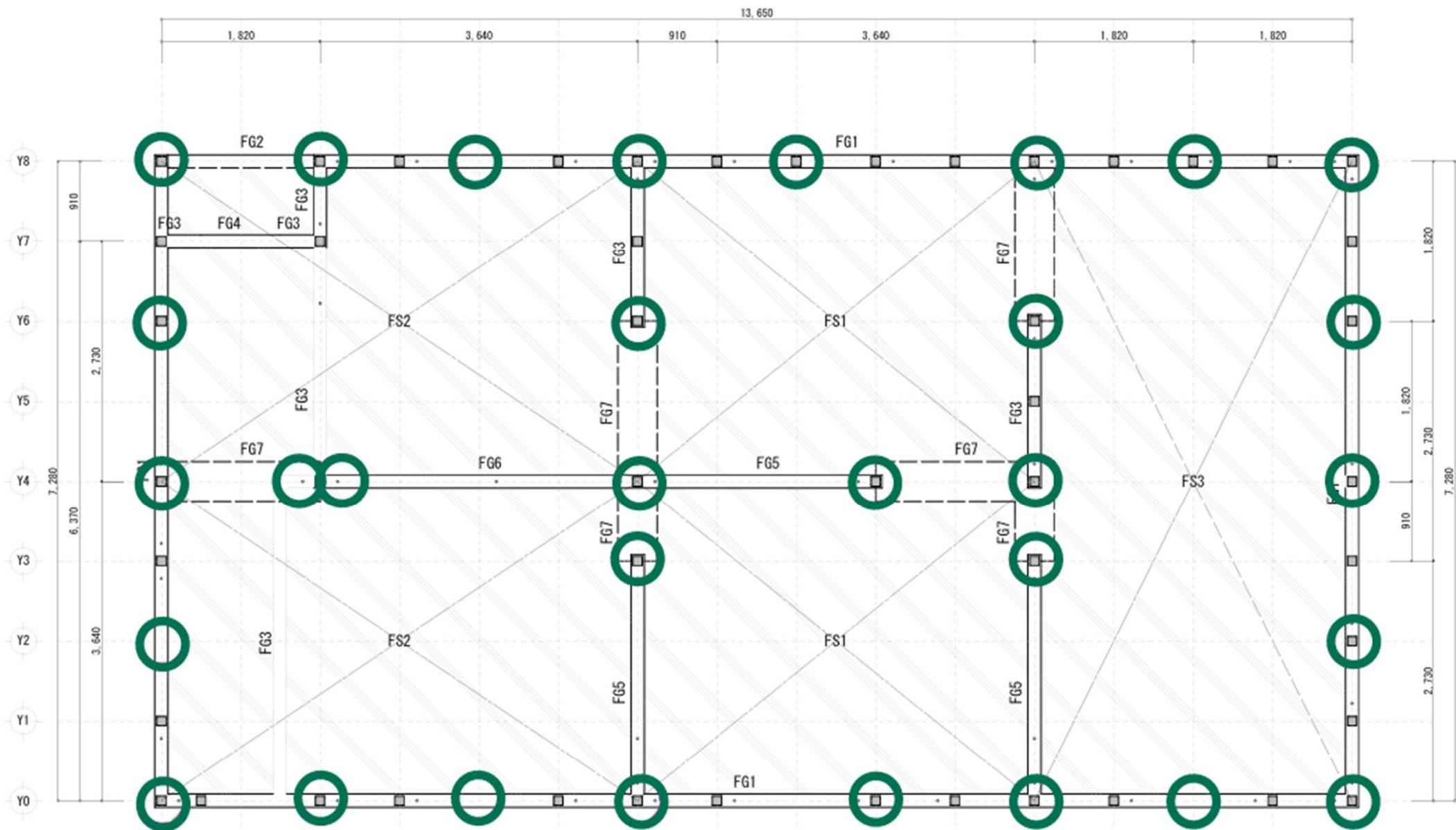
構造計画ルールの実践

基礎立上がり36.4m削減

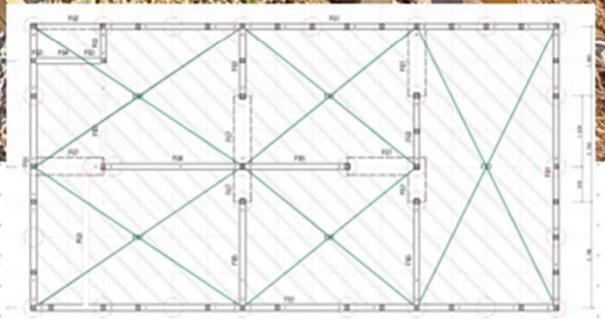


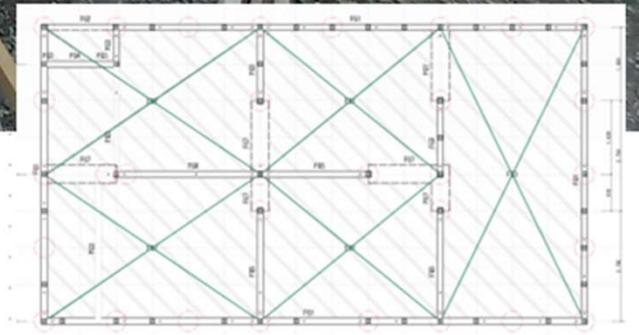
柱状改良52本

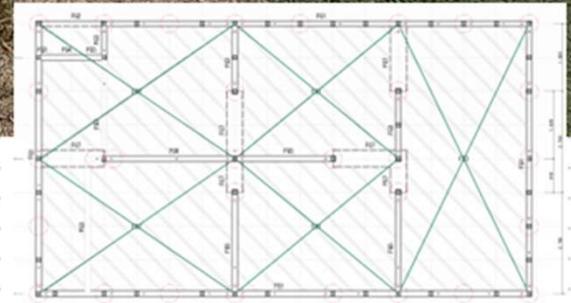




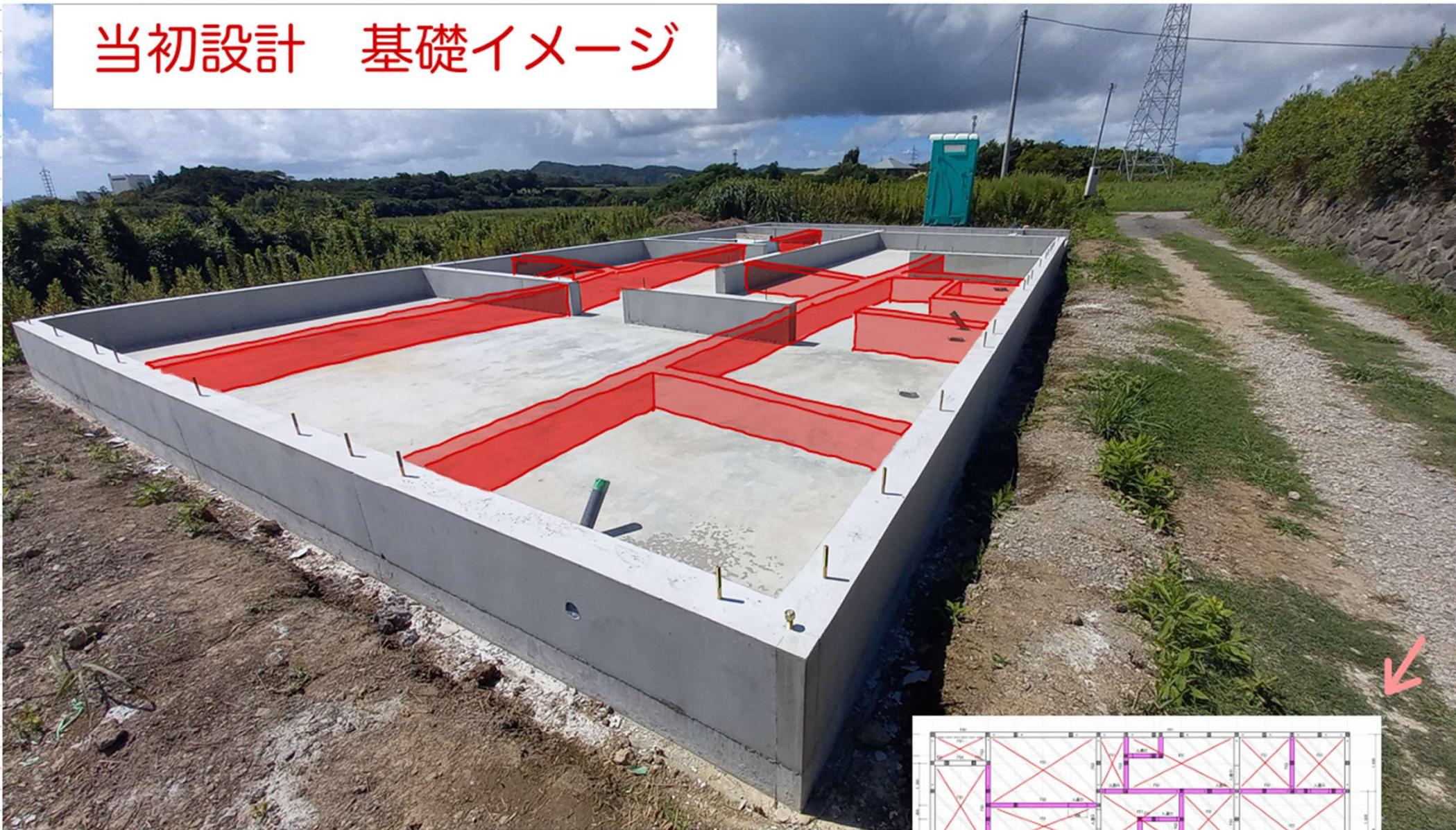
柱状改良52本→31本 21本削減(40.3%削減)







当初設計 基礎イメージ



POINT

「構造計画ガイドライン」

構造の安定と経済設計が可能！